

教育目標 やさしく かしく すこやかに——命を大切に・人を大切に・物を大切に——

重点目標	(1) 基本的人権が尊重される教育の推進 (2) 一人ひとりのニーズを把握し、適切な教育支援を行う「特別支援教育」の推進 (3) わかる授業の創造による、生きてはたらく学力の育成 (4) 心ふれあう仲間づくり (5) 基本的な生活習慣を身につけさせる (6) 心を育てる美しい環境づくり (7) 命を守る安全教育の推進 (8) 健やかな体づくり
------	---

項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
基礎・基本の徹底と、授業改善	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的、基本的な知識・技能を習得させる。 個々の教師の資質を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本的な力を定着させるための授業作りをする。また、単元ごとのテストから児童の苦手を把握して個別指導で補う。 週2回、5～10分間の朝学習を活用し、反復練習を繰り返し行い、徹底する。漢字と計算練習を中心に行う。 兵庫型教科担任制や新学習システム、チームティーチングを活用することによって、きめ細やかな個に応じた指導をする。 すべての教員が年1回以上の公開授業を行う。事後研では、改善点を話し合い、成果と課題をまとめ、今後の指導にいかす。 研究推進委員会や学力向上委員会を中心に全職員で学力向上に向けて授業の改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元テストの計算分野の正答率が80パーセント以上になる。 朝学習の時間、児童が集中して学習に取り組める。 漢字10問テストの正答率が90%以上になる。 すべての教員が、年1回以上授業を公開する。 学力向上委員会を学期に一度行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 全学年で基礎・基本的な力を定着させる授業作りを行った。また、単元テストの計算分野の正答率は80パーセントであった。 基礎学力の向上を目指し、朝学習で漢字や計算の反復練習を行った。漢字、計算テストの正答率が90パーセントに達しない学年もあった。 兵庫型教科担任制により、一人ひとりの児童の課題などを複数の担任で把握し、個に応じた指導をすることができた。 すべての教員が年1回の公開授業を行った。授業案を練る際には、複数の学年で意見交流しながら授業内容を深めることができた。事後の研究会では、成果と課題をまとめて改善点をふりかえることができた。 学力向上委員会を学期に1回行い、各学年における学習の課題や改善策について全体で意見交流を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も基礎学力の向上をめざし、授業作りをしていく。習熟しにくい子どもたちには、授業中個別に関わり、児童に合った指導をしていく。 今後も基礎学力を定着できるよう、朝学習で漢字や計算の反復練習を行うとともに、間違えた問題はとき直すなどし、確実に理解できるようにする。 それぞれの教師の授業の工夫を研修会などで共有することで今後も研鑽に努める。 児童が達成感を味わえる授業作りができるように全職員で課題や実態を共有し、児童の実態に合った授業内容の研究を深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算分野の平均正答率が80%を達成できている。 漢字のテストの正答率が90%に達していない学年がある。 漢字・計算ともに、底辺の子どもにどう力をつけていくかの具体的手立てが見えないので、しっかりと検討し、取り組んでほしい。 他の先生の授業を見るという取組は非常によいと思う。お互いに課題を共有するとともに、技量を磨き合うことで、働き方改革にもつながると考える。
	学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 思考力・判断力・表現力を育てる授業を展開する。 書く活動を充実させ表現力の育成を図る。 読書活動を充実させ読書力の習得を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを自身の言葉で伝えたり、友だちの考えを聞いて考えをまとめたりする活動を授業に取り入れる。 1分間スピーチ、話し合い活動、ペア学習などの児童同士の関わりを活用して、伝え合う力の向上を図る。 授業の中で、自分の考えをノートやワークシートに書いたり、要約文や感想文を書いたりする活動を取り入れることで、表現力の育成を図る。 週1回の図書時間、業間での本の貸し出しや、児童や教師の読み聞かせを行うことで読書意欲の向上を図り、一人一人の読書量が増えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題に対して、児童が自分の考えをもち、それを友だちに伝えることができる。 単元テストの記述問題で自分の考えを書いている児童が90%以上になる。 1ヶ月の読書目標数平均8冊を達成する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学年に応じて取り組み方を工夫し、効果的な場面では話し合い活動やペア学習を取り入れた授業づくりをすることができた。また、聞く力の育成に取り組み、全学年で聞き方名人の掲示を貼り、学習の中で生かした。 単元テストの記述問題では、90%程度の児童が自分の考えを書くことができていた。記述はできているものの、問いに対しての答え方など内容に関しては理解が不十分な部分もある。 読書量の5月～1月の一人当たりの平均は月10冊であった。読書記録を書いていない児童もいる。スタンプリーやチャレンジ読書、先生の本紹介など様々な啓発活動を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童個人の学習を保障したうえで、児童同士の関わり合いを今後も取り入れる。有効であった話し合いの手法については研修会などで共有し、話し合い活動やペア学習の時間をより充実したものにしていく。 テストでは形式に沿った記述が求められるので、授業で質問にあった書き方なども指導していくとともに演習する機会を設けていく。 授業のノートやワークシートには児童全員が何かしら自分の考えを書けるように指導していく。 記録を全員が書くようになれば、冊数が向上する。読書記録を書くよう周知徹底する。 来年度読書週間などの機会を活かし児童の意欲を向上させる読書の啓発活動を続けていく。
学習意欲の向上		<ul style="list-style-type: none"> 授業の展開を工夫し、学習意欲を向上させる。 学習習慣の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の単元指導で、電子黒板、実物投影機等のICT機器を効果的に活用し、学習意欲の向上を図る。 学習のめあてを明確にすることで、児童が見通しをもって学習に取り組めるようにする。 学習のふりかえりをする中で、一人一人が学習内容の理解を深められるようにする。 家庭で漢字や計算を反復練習できる宿題を出す。また、休日も家庭学習に取り組めるように課題を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートにおいて「授業はわかりやすい」の肯定的回答率が90%以上になる。 児童アンケートの「先生は教える方をいろいろと工夫している」で肯定的評価が85%以上になる。 高学年を対象に実施する児童アンケートの「家庭学習(宿題を含めて)を高学年90分以上している」の肯定的評価が80%以上になる。 児童アンケートの「宿題を提出している」の肯定的評価が95%以上になる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートの「授業はわかりやすい」の肯定的意見は85%であった。 教職員アンケートの「ICT機器を効果的に取り入れている」では肯定評価が88%であった。 教師間で活用方法を共有し、効果的なICT機器の使用について研修を行った。 児童アンケートの「先生は教える方をいろいろと工夫している」では肯定評価は90%であった。 めあてを明示してから学習に取り組むことは、全学年で実施できたが学習のふりかえりは、授業の時間が足りずできないこともあったが、おむねできている。 児童アンケートでは肯定評価は58%であった。低学年・中学年は宿題の量を検討し、家庭学習の習慣を概ね定着させることができた。 「宿題を毎日提出している」の肯定評価は85%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も「分かりやすい授業」を展開していくための授業研究を継続していく。また、ICT機器の効果的な活用方法についても全職員で研究を深めていく。 学習のめあてを明確にしたり、学習のふりかえりをするのは、見通しをもって主体的に学習活動に参加させるうえで、有効な手立てなので今後も継続していく。 各家庭と連携し、宿題や自主学習に取り組む、家庭学習の習慣を定着できるようにしていく。

豊かな心・健やかな体	不登校児童への対応	・不登校の未然防止を図る。	・欠席連絡のない児童については、始業前後に家庭に連絡を取り、連絡のつかない場合は担任、児童支援教員やその他の教員と連携して必要に応じて家庭訪問を行う。 ・ケース会議を開き、個に応じた対策を検討する。(別室登校、担任が登校前に家庭訪問する等)	・病欠者を除き、欠席日数が年間30日以上の子を1パーセント以下にする。登校への行きしぶりが見られる児童に対して、月1回以上、必ずケース会議を開く。	B	・該当児童は1%未満であった。 ・保護者からの連絡がない欠席や遅刻が多く、学校から問い合わせる機会が多かった。 ・朝の上靴チェックにより欠席や遅刻が増えている児童を把握し、電話連絡や家庭訪問等を行うことで、一定の成果があった。課題を抱える児童や保護者については、話を聞いたり、スクールカウンセラーとつないだりすることで、安心して学校へこられるようになった児童もいた。	・遅刻が増えてきた児童について、担任が学校での児童の様子を気にかけて、保護者や児童へ遅刻しないように声をかけたりする。	・子どもが親しみやすい雰囲気を作り出してくれる先生が増え、いじめの芽を早期に摘んでいこうとする取組に感謝したい。今後も、先生に相談しやすい体制を維持してほしい。 ・いじめが原因での不登校がないのは、普段の仲間づくりの成果だと思う。 ・継続して、いじめ防止と不登校児童の支援体制の強化に取り組んでほしい。 ・連絡なしの欠席や遅刻が多いという課題にどう取り組み改善していくか具体策を立て、実行してほしい。
	体力の向上	・自ら進んで体力を向上させようとする児童を育てる。	・体育委員会児童主催の外遊びや啓発運動や運動大会を実施する。 ・鉄棒、マット、縄跳びなど、授業で活用できる「運動カード」を各学年の学習内容に応じて作成し、活用する。 ・体育大会に向けてリレー練習ができるように朝の時間にトラックを開放して練習時間を設けたり、トラック以外にも練習ゾーンを設置したりする。	・全児童の外遊びの機会を増やすことを目指し、外遊びの計画実施や長縄大会・ドッジボール大会を実施する。 ・授業で「運動カード」を活用し、授業や業間休みを通じて学習内容を深めようとする。 ・職員に周知し、多くのクラスが活用できるようにする。児童が自主的・主体的に取り組もうとする。	A	・長縄大会に向けて、各クラスで跳び方や回し方を工夫しながら練習に励んでいた。 ・授業や業間休みに、「運動カード」に沿って、友達と一緒に意欲的に練習に取り組んでいた。 ・体育大会に向けて、朝の時間や業間休みに大半のクラスがトラックやバトンゾーンを有効に活用できた。	・引き続き、雨天時の予備日の設定を計画的に行い、外遊びの計画実施を行っていく。学期毎に各学年で外遊びのテーマを決めるなどして、実行委員のもと、計時・計数を行っていくことも検討していく。 ・学年に応じて、系統だてて学習できるように、「運動カード」の内容を学年で検討し、次年度に引き継いでいく。 ・走ることを通じて、体力の向上につながるように、今後も引き続き練習の場を設けたり呼びかけたりし、リレー練習を活性化していく。	・長縄やドッジボール大会など、子どもたちがはまる仕掛けがよい。 ・今後、さらに運動が苦手な子どもが運動好きになる具体的な取組や授業改善を期待したい。 ・放課後の運動場開放に取り組んでいただいた。 ・体力向上については、全国体力・運動能力調査の結果を踏まえて課題解決に取り組んでほしい。
開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	・積極的に学校情報を発信する。	・学校ホームページを週1回更新し、学校情報を積極的に発信する。更新は計画表を作成し、見直しをもって行う。 ・学校だよりを月2回程度を目標に発信する。	・学校ホームページを週1回以上更新する。 ・保護者アンケートの「学校は教育方針や行事、活動などの様子を学校通信やホームページ等を通じて保護者に伝えている」の肯定的回答が90%以上になる。	A	・年平均、週に3～5回ペースでホームページを更新している。 ・保護者アンケートの肯定的な意見は98%であった。	・日々の授業や行事などの様子を保護者や地域の方に発信することができていたので、今後も継続して取り組んでいく。	・積極的な情報発信に努めていると思う。保護者アンケートの肯定的意見が98%は素晴らしい。 ・地域のボランティアの方のお手伝いなど、開かれた学校としてしっかり取り組んでいると思う。
		・授業参観やオープンスクール・仲間作り集会の参観を実施し、保護者や地域の方に授業の様子を公開する。 ・学校運営協議会にて、職員と地域の方が積極的に意見交流できるようにしていく。	・行事委員会で、月に一度は学校公開できるよう計画的に行事を設定する。	・行事委員を定期的に開き、月に一度は学校公開できるよう前年度から計画的に行事を設定することができた。 ・地域のボランティアの方にお手伝いいただき、大掃除を行うことができた。		・今後も行事委員会や職員で計画を練っていくとともに、来年度以降の行事の見直しなども行っていく。 ・コミュニティースクールにて、職員と地域の方が実態把握や意見交換ができるよう積極的に職員が参加できるようにしていく。	・スマホの普及で、お年寄りの方でもホームページを見られる方が増えた。子どもと保護者、学校と地域のつながりを深めるツールとして、今後も大いに活用してほしい。	

学校関係者評価総括
・普段から仲間づくりを意識した取組がされており、中学校でも生徒間のいじめやトラブルがほとんどなく、良好な人間関係が築けている。今後も、仲間づくり、絆づくりを重視した取組がされていくことを期待する。
・「思考力・判断力・表現力の育成」について、高い目標を達成している。記述問題では90%程度の児童が自分の考えを書くことができているということだが、問いに対しての記述でなければ意味がない。問いに対しての記述として、自分の考えを書くことのできる子どもを育てるための具体的な目標設定をすることが望まれる。

次年度に向けた重点的な改善点
・自分の考えを表現し、主体的に学ぶ子どもを育成する研究を推進する。
・仲間づくりを核として、支持的な風土のある学級づくり、いじめのないすべての子どもが楽しく過ごせる学校づくりに全職員で取り組む。

自己評価の基準 A：目標を上回った B：目標どおりに達成できた C：目標をやや下回った D：目標を大きく下回った